

# 令和5年度 年間指導計画(シラバス)

教科名	地歴公民	科目名	世界史A	単位数	2	履修学年・クラス	3ABC
担当者		使用教材	高等学校 世界史A (第一学習社〈世A 317〉)／ダイアログ世界史図表(第一学習社)				

## 1. 学習目標

- 世界の歴史を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解する。
- 現代世界の諸課題を歴史的観点から考察する力を身につける。
- 歴史的な思考力を培い、国際社会において主体的に生きる一人の人間としての自覚と資質を養う。

## 2. 学習方法

- 教科書や資料集を通し、世界史に関する事象の基礎的知識を身につける。
- 歴史的な事象を多角的な視点から考察し、自ら考え、適切に表現する力を身につける。
- 教科書・資料集の図版や地図を読み取ったり、歴史的な事象を年表や地図に表したりする力を身につける。
- パソコンや図書などを利用した「調べ学習」を行い、その結果をレポートにまとめ、発表することで情報収集力や表現力を養う。

## 3. 学習評価

評価の観点	関	関心・意欲・態度	世界史の学習内容を単に暗記だけで終わらせず、近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と問題意識を高め、自ら意欲的に探求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。
	思	思考・判断・表現	近現代史を中心とする世界の歴史から問題点を見だし、世界的な視野に立ってその原因や背景をさまざまな角度から分析したり、歴史的な意義を考察するなど、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し適切に表現することができる。
	技	技能	近現代史を中心とする世界の歴史についてのさまざまな資料を自らの力で収集し、その中から有用な情報を選択して世界的事象を探求する方法を身につけて活用することができる。
	知	知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事象を、我が国の歴史と多角的な視点から関連づけながら理解し、歴史的な事実や歴史の構造について知識として身につけている。

## 4. 学習計画

学期	内容のまとめ	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)のおもな評価基準	評価方法
				関	思	技	知		
前期	前期中間	第1編 世界史へのいざない	第1章 自然環境と歴史					関：地理的な視点から歴史を考察したり、自然環境と人間の活動の関わりに触れることで、世界史への関心を高め探求しようとしている。 思：古代文明と自然環境のつながりや、鉄砲伝来・岩見銀山の例から日本と世界のつながりを考察し、自ら考え適切に表現することができる。 技：世界の古代文明や、鉄砲伝来に関する資料を調べたり、地図や年表を活用するなど、有効な情報を効果的に活用している。 知：基本的な事象を様々な視点から関連づけて理解し、歴史的な事実や歴史と自然環境のつながりを知識として身につけて理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 意見発表
			第2章 日本列島のなかの世界の歴史						
		第2編 世界の一体化と日本	第1章 ユーラシアの諸文明					関：東アジアの特質に対する関心を高め、日本との深い関わり合いなどを意欲的に探求しようとしている。 南アジアの多様性や、東南アジアにおける多様な社会・文化の形成に関心を高め、意欲的に探求しようとしている。 西アジアで古代から文明が栄えた背景に関心を高め、日本の歴史との関わりや、イスラームについて意欲的に探求しようとしている。	小テスト 期末考査
			1節 東アジア						
			2節 南アジア					思：中国や朝鮮だけでなく、遠方のオリエント・イラン文明が日本にもたらした影響や過程を理解・考察し、その結果を適切に表現している。 仏教や漢字などを日本文化と関連づけて多角的に考察したり、イスラーム世界の形成の過程を理解し、その結果を適切に表現している。	
			3節 東南アジア					技：地図や年表など、アジア諸地域の歴史的な事象や変遷に関する資料を調べ活用するなど、有用な情報を効果的に活用している。 漢字・仏教・儒教などに関する様々な資料を収集し、アジアと日本の関わりを考察するために有用な情報を選択して活用している。	
		4節 西アジア					知：アジア諸地域の多様性や特質を多角的な視点から構造的に理解し、基本的な知識を身につけている。 西アジアに生まれたイスラームが急速に拡大し、独自の世界を形成して今日に至っていることを理解し、その知識を身につけている。		
	前期末	第2編 世界の一体化と日本	5節 ヨーロッパ					関：ギリシャ・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響や、アメリカ文明の特色に対する関心を高め、意欲的に探求しようとしている。	授業態度 発問評価
			6節 アフリカ						
			7節 アメリカ					思：ギリシャ・ローマ文明、キリスト教の形成と影響、ネットワークの交流を考察して歴史的意義を判断し、その内容を適切に表現している。	提出課題
			8節 ユーラシアの海の交流					技：地図や年表など、ギリシャ・ローマ、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカの文明やユーラシアのネットワークの形成に関する資料を自ら進んで収集し、その中から有用な情報を選択して活用し、考察を深めている。	レポート
			9節 ユーラシアの陸の交流					知：ギリシャ・ローマ、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、陸海ネットワークの特質を多角的な視点から理解し基本的な知識を身につけている。	意見発表
第2章 結びつく世界と近世の日本 ①～⑥							関：アジア諸地域の特質と近世日本の関係、ルネサンスと宗教改革、大航海時代、16世紀～18世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と世界の一体化に関心を高め、自ら意欲的に探求しようとしている。	小テスト 期末考査	
	第2章 結びつく世界と近世の日本 ⑦～⑨					思：イスラーム世界の成熟とオスマン帝国、ルネサンスや宗教改革の歴史的背景、世界の一体化とアメリカ・アフリカ・ヨーロッパの変容などを多角的に考察し、その内容を適切に表現している。			

				第2章 結びつく世界と近世の日本 ⑩～⑬					○	○	技・ 知: 近世日本とアジアの関係、イスラーム世界の成熟、ルネサンスと宗教改革、大航海時代と世界の一体化とそれにもなう欧米の変容について理解し、その知識を身につけ、有用な資料を活用している。			
後 期	後 期 中 間	第2編 世界の一体化と日本	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ①～⑥						○	○	産 業 革 命・独 立 革 命・ウ ィ ー ン 体 制 下 の 運 動・ロ シ ア の 対 外 進 出・西 部 開 拓・ヨ ー ロ ッ パ の ア ジ ア 進 出・明 治 維 新 と ア ジ ア へ の 影 響 な ど に 関 心 を 高 め、自 ら 意 欲 的 に 探 求 し よ う と し て い る。	授業態度 発問評価		
			第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ⑦～⑫						○	○	思: 産 業 革 命・独 立 革 命・ウ ィ ー ン 体 制 下 の 運 動・ロ シ ア の 対 外 進 出・西 部 開 拓・ヨ ー ロ ッ パ の ア ジ ア 進 出・明 治 維 新 と ア ジ ア へ の 影 響 な ど に つ い て、歴 史 的 な 意 義 や 影 響 を 多 角 的 な 視 点 か ら 考 察 し、そ の 内 容 を 公 正 に 判 断 し 適 切 に 表 現 し て い る。	提出課題 意見発表		
			第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本 ①～④							○	○	技: 地 図 や 年 表・写 真 な ど、17 世 紀 か ら 18 世 紀 の 世 界 の 特 質、欧 米 の 資 本 主 義 の 確 立、明 治 維 新 と ア ジ ア へ の 影 響、ア ジ ア の 植 民 地 化 と 19 世 紀 の 世 界 の 一 体 化 に 関 する 資 料 を 活 用 し 考 察 を 深 め て い る。	小テスト 期末考査	
			第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本 ⑤～⑧							○	○	知: 産 業 革 命・独 立 革 命・資 本 主 義 の 確 立・ウ ィ ー ン 体 制 下 の 運 動・ロ シ ア の 対 外 進 出・西 部 開 拓・ヨ ー ロ ッ パ の ア ジ ア 進 出・明 治 維 新 と ア ジ ア へ の 影 響、世 界 の 一 体 化 へ の 動 き な ど を 理 解 し、基 本 的 知 識 を 身 に つ け て い る。		
	後 期 末	第3編 地球社会と日本	第1章 帝国主義の時代 ①～③							○	○	関: 帝 国 主 義 の 時 代 に お け る 列 強 の 世 界 政 策 や、19 世 紀 末 か ら 20 世 紀 初 頭 に か け て の ア ジ ア・ア フ リ カ の 急 激 な 変 貌、さ ら 世 界 史 の 中 に 見 る 日 本 の 大 陸 進 出 の 問 題 な ど に 関 心 を 高 め、自 ら 意 欲 的 に 探 求 し よ う と し て い る。		
			第2章 急変する人類社会							○	○	思: 帝 国 主 義 の 時 代 に お け る 列 強 の 侵 略 に さ ら さ れ た ア ジ ア・ア フ リ カ の 変 貌 と 諸 民 族 の 覚 醒、日 本 の 大 陸 進 出 が 現 代 に 与 え た 影 響 な ど を 公 正 に 判 断 す る と も に、適 切 に 表 現 し て い る。		
													技: 帝 国 主 義 列 強 の 世 界 政 策 と ア ジ ア・ア フ リ カ の 変 貌、19 世 紀 末 か ら 20 世 紀 初 頭 に か け て の 日 本 の 大 陸 進 出 と 影 響、す ず む 世 界 の 一 体 化 と 大 衆 の 登 場 と い う テ マ に 関 する 資 料 を 活 用 し、考 察 を 深 め て い る。	
													知: 帝 国 主 義 時 代 の 列 強 の 世 界 政 策、ア ジ ア の 植 民 地 化 と ロ シ ア、日 本 の 大 陸 進 出、世 界 の 一 体 化 と 大 衆 の 登 場 へ の 動 き な ど を 多 角 的 な 視 点 か ら 理 解 し、基 本 的 な 知 識 を 身 に つ け て い る。	
	後 期 末	第3編 地球社会と日本	第3章 世界戦争と平和 ①～⑪							○	○	関: 20 世 紀 の 世 界 の 特 質 に 対 する 関 心、2 度 の 世 界 大 戦 の 背 景・影 響・平 和 の 意 義、冷 戦、戦 後 の 民 族 運 動、ア ジ ア・ア フ リ カ の 問 題 な ど に 関 心 を 高 め、自 ら 意 欲 的 に 探 求 し 国 際 社 会 に 主 体 的 に 生 き る 国 家・社 会 の 一 員 と し て の 責 任 を 果 た そ う と し て い る。	授業態度 発問評価	
			第4章 三つの世界と日本の動向 ①～⑦							○	○	思: 20 世 紀 の 世 界 の 特 質 に 対 する 関 心、2 度 の 世 界 大 戦 の 背 景・影 響・平 和 の 意 義、冷 戦、戦 後 の 民 族 運 動、ア ジ ア・ア フ リ カ の 問 題 な ど を 深 く 考 察 し、公 正 に 判 断 す る と も に、そ れ ら を 適 切 に 表 現 し て い る。	提出課題 意見発表	
			第5章 地球社会への歩みと課題 ①～⑦								○	○	技: 地 図 や 年 表 な ど、20 世 紀 の 世 界 の 特 質 に 対 する 関 心、2 度 の 世 界 大 戦 の 背 景・影 響・平 和 の 意 義、冷 戦、戦 後 の 民 族 運 動、ア ジ ア・ア フ リ カ の 問 題 な ど に 関 する 資 料 を 活 用 し 考 察 を 深 め て い る。	レポート 小テスト
			第6章 持続可能な社会への展望 ①～③								○	○	知: 20 世 紀 の 世 界 の 特 質 に 対 する 関 心、2 度 の 世 界 大 戦 の 背 景・影 響・平 和 の 意 義、冷 戦、戦 後 の 民 族 運 動、ア ジ ア・ア フ リ カ の 問 題、地 域 紛 争 の 原 因 な ど を 理 解 し、基 本 的 知 識 を 身 に つ け て い る。	期末考査

担当者から

○現代の国際社会の問題と歴史のつながりについて深く学びます。時事問題に関心を持ち、社会に対する問題意識を高めながら学んでほしいと思います。  
 ○普段の授業を大切に、自ら積極的に参加し意見を述べてください。期末考査は授業で使用するプリントノートをもとにした内容で出題します。  
 ○意見発表やディベートを多く取り入れるため、シラバスの予定が後ろにずれ込む場合があります。また、理解度の状況や社会情勢の変化に応じて授業内容を一部変更することがありますがご了承ください。